（環境）岩津小学校　４年

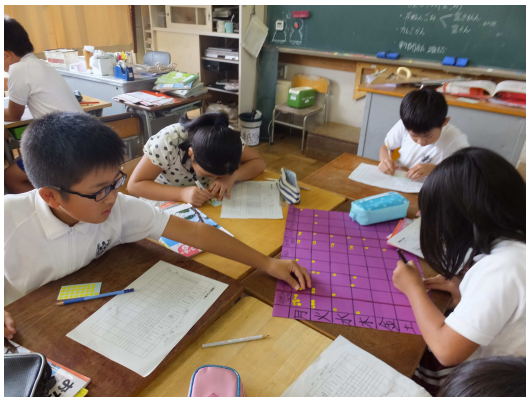
「ごみの行方を調べよう」

９月～１０月（１２時間）

１　ねらい

社会科の授業において各家庭の１週間分のごみの量を調査した。各自調査した子供のごみのデータをグループごとに集計すると、圧倒的に可燃ごみが多く、それに比べてビンや空きカンはあまり出ないことが明らかになった。また、ごみについて調査していくなかで、ごみは可燃ごみ、不燃ごみ、紙製容器包装、ペットボトル、プラスチック製容器包装に分別されるということや、決まった曜日にごみステーションへ出しているということを知った。自分たちが何気なく捨てていたごみの量や捨てる曜日を知り、ごみについてさらに詳しく知りたいという探求心が高まった。

そこで、２学期の環境学習のテーマを「ごみの行方を調べよう」と設定し、家庭で出たごみがどこへ運ばれ、どのように処理されていくか調べを進めることにした。この実践を通して、ごみ処理の仕方や人々の苦労、現状を理解し、自分たちに何ができるか考えられる子になることを願って、実践を行った。



▲ごみ調査のまとめ

２　実践の概要

（１）ごみステーションのごみを見学しよう

学区のごみカレンダーを配付し、どのごみが何曜日にごみステーションに出されるか確認した。可燃ごみは月曜日と木曜日に出されることを確認し、ごみステーションに出された可燃ごみの様子と、ごみが収集車に回収される様子を見学しに行った。子供はごみステーションに出されたごみが回収される様子を見て、「すごい速さで車に乗せるね」「作業着は汚れてもいい服かもしれないね」「収集車はごみを潰しながら車に入れているね」などと言っており、主に作業員の様子に注目しながら見ていた。また、「このごみは本当にきちんと分別されているのかな」「このごみはこの後どうなるのかな」など、ごみに関する疑問の声がたくさん挙がった。

▲ごみステーション見学の様子

（２）ごみ処理の様子を見学しよう

ごみの行方に対する関心が高まってきたところで、岡崎市中央クリーンセンターへ見学に行った。プラットホームに来た収集車がごみをごみピットに入れる様子を見て、「ごみステーションにあったごみはここに運ばれて来るんだね」「次々にごみ収集車がごみを運んでくるね」と、岡崎市内のごみは全てごみピットに集められることを理解した。さらに、ごみピットの中を見たり、ごみがクレーンによって混ぜられる様子を見たりして、ごみの

量の多さやクレーンの大きさやクレーンを人が操作しているところに驚いていた。

中央クリーンセンターで働く人の話では、ごみの燃える様子を２４時間確認していたり、ごみステーションで分別されていないごみがあると、作業員が分別しなければならなかったりと、働く人の苦労を知ることができた。また、クリーンセンターで溶かしきれなかったごみや灰は最終処分場に埋め立てるため、なるべくごみを減らしてほしいという願いを聞くこともできた。以下、子供の感想である。

▲プラットホーム見学の様子

子供の感想
- ごみステーションで回収されたごみがどのように処理されるか分かりました。大きなクレーンでごみを混ぜるところが、とても面白かったです。
- ２４時間ごみを監視していると聞いて、驚きました。ずっと機械の前に座っていて、大変そうだなと思いました。
- ごみの量の多さを見てびっくりしました。溶かせなかったごみは埋められると聞いて、なるべくごみを出さないようにしたいと思いました。

クリーンセンターの見学を通して、ごみ処理の仕組みを理解することができた。また、働く人の苦労やごみが多いと困ってしまうということに気付くことができた。

（３）自分たちにできることを考えよう

ごみステーションやクリーンセンターの見学を通して分かったことをまとめ、自分たちに何ができるか、クラスで話し合った。以下、話し合いで出た意見である。

自分たちにできること
- 使わない物は買わない。
- ごみを分別する。
- 食べ残しをしない。
- マイバッグを使う。
- 兄弟が着ていた服でまだ着られるものは着る。

▲話し合う様子

自分たちできることを考え、意見を出し合うことで、環境への意識も高まったように感じられた。また、冬休み中にごみを減らすための工夫を行った子供の数を調査すると、８割の子供が行ったと答えた。子供は「スーパーで箸をもらわなかった」「マイバッグを使った」などと言っており、授業で学んだことを実践していることが分かった。

３　実践を振り返って

実際に自宅で出るごみを調べ、ごみステーションの様子を見ることで、探究心をもつことができた。そのため、クリーンセンターでは、ただ見学するのではなく、興味をもちながら見学することができ、ごみの量について身近な問題として考えることができた。この実践を通して、自分たちができることをしようという意識が芽生えたと思う。